厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））
 神経変性疾患領域の基盤的調査研究班（総括・分担）研究報告書

本態性振戦（重症）に関する研究

研究分担者 古和 久典（独）国立病院機構松江医療センター副院長

研究要旨

本態性振戦の中で稀少頻度と推定される「本態性振戦（重症）」の診療の質を高めるため、診療GLを作成を進めている。

古和 久典（独）国立病院機構松江医療センター副院長

A. 研究目的

本態性振戦（重症）は、本態性振戦患者の中で震えのために就労や日常生活にきわめて大きな支障を来している患者をさしているが、本態性振戦（重症）のみならず本態性振戦そのものの疫学や臨床像は十分明らかにされていない。本研究では、本態性振戦の疫学や臨床像を明らかにし、診療GLや診療手順を整備することによって診療の均霑化を図ることを目的としている。

B. 研究方法

GRADE システムを取り入れたMinds 2017に準拠して、診療GLの作成を進めた。
 （倫理面への配慮）
 該当なし

C. 研究結果

既に選定した本態性振戦の診療GL作成メンバーにCQを分担し、作成協力者とともに推奨文・回答文の原案作成を行った。
 メールで種々の情報を共有するとともに、2022年3月18, 20, 21日の3日間に作成関係者によるWeb検討会議を実施し、本態性振戦の診療GL改訂案を作成した。
 その後、GRADEシステムに該当する

CQについて、その推奨度について投票形式による意見交換を進めた。

D. 考察

今後、診療GLが完成時には公表するとともに、実臨床における本態性振戦の評価法や診断基準の有用性とそれらの問題点を検討していく。

E. 結論

本態性振戦に対する診療GL原案を作成し、改訂を進めている。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表
 - ・古和久典，本態性振戦の薬物療法（日本神経学会学術大会シンポジウム，京都，2021年5月20日）

H. 知的財産権の出願・登録状況
 （予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし